

## 大学による国際協力活動の促進

文部科学省大臣官房国際課国際協力政策室長  
梅澤 敦

### 1 大学を取り巻く社会的状況

- ・ 国内外の大学間競争の激化
- ・ 知の創造と社会還元に対する期待の増大

### 2 文部科学省による国際関連の支援事例

- ・ 国立大学等における教育研究の充実と活性化への支援
- ・ 外部資金として活用可能な支援

### 3 国際協力政策室による取組

- ・ 国際協カイニシアティブの実現
- ・ 経験の体系化と共有情報化の推進
- ・ 大学のリソース情報活用の促進

### 4 おわりに

- ・ 教育や研究に有益な事業への積極的な参加
- ・ 国際協力活動に関する様々な提言





### 大学を取り巻く社会的状況

- 国内外の大学間競争の激化
- 知の創造と社会還元に対する期待の増大

↓

国際化・多様化を通じた大学教育改革の必要性

**国際的活動に対する取組の強化**

<個性化・活性化の推進、交流／協力や連携の強化と充実>

↓

文部科学省は、平成19年内に、「大学グローバル化プラン」(仮称)を策定予定

## 文部科学省による国際関連の支援事例[1]

### 国立大学等における教育研究の充実と活性化 への支援(例)

#### ▶ 特別教育研究経費

新たな教育研究ニーズに対応し、各国立大学等の個性に応じた意欲的な取組を重点的に支援する

\* 相談があった大学に対し、国際課で推薦書を作成するなどの協力を実施

平成19年度予算要求 : 帯広畜産大学(連携融合事業)  
名古屋大学(教育改革)

鳴門教育大学(教育改革)

平成20年度予算要求 : 鳴門教育大学(教育改革)  
宇都宮大学(教育改革)

## 文部科学省による国際関連の支援事例[2]

### 外部資金として活用可能な支援(例)

#### ▶ 国際競争力のある研究・教育拠点の形成

科学研究費補助金

グローバルCOEプログラム (←21世紀COEプログラム(新規公募なし) 等

#### ▶ 大学の多様な機能の展開

大学教育の国際化推進プログラム

現代的教育ニーズ取組支援プログラム(環境教育、知的財産関連教育ほか)

大学院教育改革支援プログラム 等

#### ▶ 大学による国際協力活動の促進

国際協カイニシアティブ <平成18年度国際教育協力懇談会報告の具体化> 等

\* 平成20年度予定のプログラム等については、別紙の高等局の概算要求主要事項説明資料参照

## 国際協力政策室による取組[1]

### ■ 国際協カイニシアティブの実現 ■

#### (1) 経験の体系化と共有情報化の推進

##### 教育協力拠点の形成

開発途上国における教育開発促進のため、大学ほか我が国の教育・研究関係者が有する我が国の知見を整理・蓄積・実証し、教育協カに有用なモデルを形成する。

#### (2) 大学のリソース情報活用の推進

##### リソース情報の整備と広報

我が国の大学のリソースや途上国の大学のニーズに関する調査・分析をする。セミナー開催や媒体への掲載などを通じ、大学のリソースほかについて広報する。

### 「大学の知」を活用した国際協カの促進

#### (3) 大学の分野別協カ活動支援の推進

##### 知的ネットワークの整備

分野別の動向について調査・分析したり、大学のリソースほかに関する助言を得るため、専門家で構成する分野別の委員会を核とする人的ネットワークを形成する。

## 国際協力政策室による取組[2]

### (1) 経験の体系化と共有情報化の推進 ～教育協力拠点の形成～

開発途上国における教育協カを促進するため、大学ほか我が国の教育研究関係者が有する**教育研究上の知識や経験を調査・蓄積・体系化**するとともに、我が国の知見を踏まえた**教育協カモデルの構築・検証**を行い、それらの成果を容易に活用可能な形式で公開することにより、国内外の援助関係者が教育協カの**現場で容易に活用可能かつ効果の早期発現**が期待できる成果群を形成することを目的とする。

#### 教育研究に関する 我が国の知見体系化の支援

- ・教育研究に関する我が国の知識や経験の調査・蓄積と体系化、教育協カモデル化とモデルの検証・改善を支援
- ・成果の共有情報化を支援

<具体例>

大学経営・運営、産学地連携(教育、研究)、(食農)環境教育、(科学技術系)高度人材育成、FD(Faculty Development)、教育行財政、高等教育政策、教員研修、学校経営・運営など

#### 青年海外協カ隊 派遣現職教員の支援

- ・JICAの青年海外協カ隊「現職教員特別参加制度」で途上国に派遣される教員が多い職種を中心に、派遣前や派遣中の活動を支援
- ・帰国教員が日本国内で行う教育関連の活動を支援

## 国際協力政策室による取組[3]

### ▶ 平成19年度案件の実施状況

- ◎昨年度からの継続課題 12件(基礎教育分野中心)
- ◎第一回公募 応募数:55件、採択数:11件
- ◎第二回公募 応募数:40件、採択数:11件

### <農学系分野における実施案件>

#### ◎教育研究に関する我が国の知見体系化の支援(継続課題)

|        |                              |
|--------|------------------------------|
| 東京農業大学 | NGOと大学との連携による食農環境教育支援システムの構築 |
|--------|------------------------------|

#### ◎関連情報の整備・管理(第一回公募)

|       |                                  |
|-------|----------------------------------|
| 名古屋大学 | 大学等が有する農学分野の国際協力知的援助リソースDBの作成と管理 |
|-------|----------------------------------|

#### ◎教育協力に関する我が国の経験の活用(第二回公募)

|      |                                      |
|------|--------------------------------------|
| 九州大学 | インドシナ地域における農学・獣医学系大学でのアウトリーチ活動の現状と協力 |
|------|--------------------------------------|

## 国際協力政策室による取組[4]

### (2)大学のリソース情報活用の推進 ~リソース情報の整備と広報~

#### ▶ 大学の援助リソースの調査

##### ◎目的

我が国の大学の援助リソース(人材や教育研究機能など)が有効に活用されうる環境を整備するため、大学における援助リソースを把握する

##### ◎用途

- ・援助リソースの附存状況の確認
- ・援助リソースに関する情報共有の推進
- ・国内の援助実施機関に対する人材情報の提供
- ・外国の大学関係者等に対する留学先や共同研究相手情報の提供

##### ◎本年度実施分野

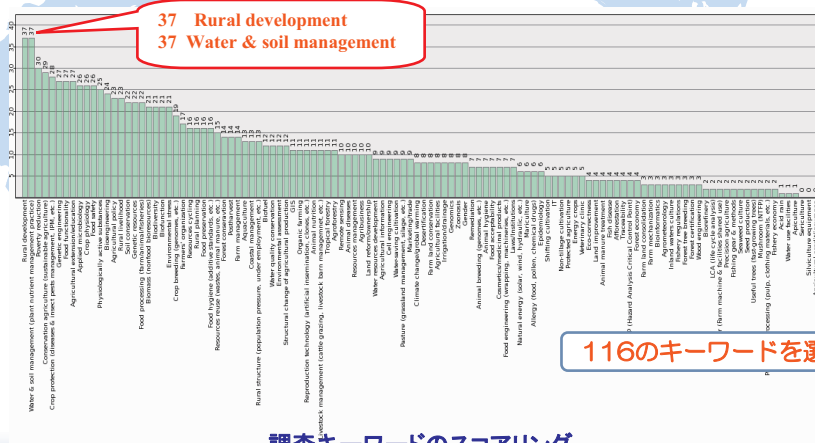
- ・「教育」
- ・「水・環境」
- ・「保健・医療」
- ・「**農林水産**」

##### ◎リソース情報 HP (Database of Intellectual Resources and Needs for International Cooperation)

<http://www.irene-db.org/index.html>

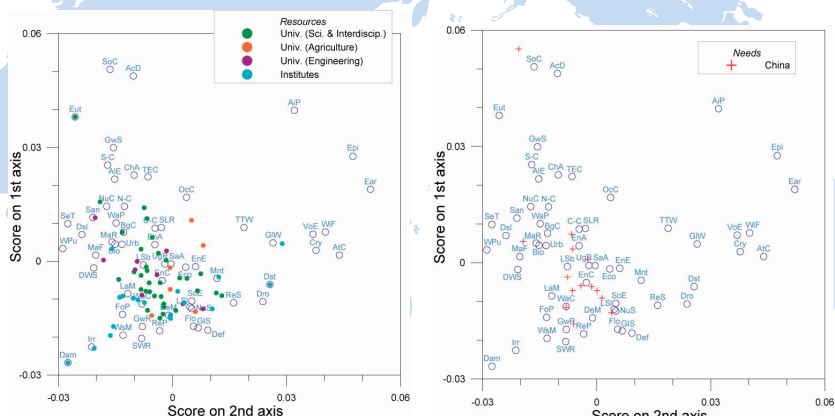
### 大学の援助リソース調査（結果例1\_農林・水産分野）

各分野毎に選定したキーワード毎に、研修の開催・留学生の受け入れ・技術移転・共同研究の実施についての対応可能性を調査し、全国公私立大学の教員にアンケートを実施。調査結果は、我が国の援助リソース情報として活用。



### 大学の援助リソース調査（結果例2\_水・環境分野）

リソース調査終了後、途上国の大学等のニーズ調査を行い、日本のリソースとのマッチング状況の把握も可能とする。



## おわりに

### みなさまに期待すること

➤ 教育や研究に有益な事業への積極的な参加

◎文部科学省各種プログラムへの参画  
(国際協カイニシアティブ・グローバルCOEプログラム・大学院教育改革支援プログラム等)

◎JICAやJBICの案件の受託等

➤ 国際協力活動に関する様々な提言

◎新JICAや国際協力機関への提言等

**ご相談等は、国際協力政策室まで  
お気軽にご連絡ください。**

国際協カイニシアティブHP <http://www.scp.mext.go.jp/index.html>



**発表者プロフィール**

氏 名 梅澤 敦（うめざわ あつし）

現 職 文部科学省大臣官房国際課国際協力政策室長

**職歴**

平成 2 年 4 月 文部省採用

青森県教育委員会文化課長、

初等中等教育局中学校課環境教育専門官、

欧州連合日本政府代表部一等書記官、

内閣府公益認定等委員会事務局企画官などを経て、

平成 19 年 8 月より現職



## 大学による国際協力活動の促進

梅澤 敦

文部科学省大臣官房国際課国際協力政策室長

### 質疑応答

- (横原) ご報告大変ありがとうございました。ただ今、大学による国際協力活動の促進ということで、文部科学省による「大学の知」を活用した国際協力を促進するための取り組みについてご報告いただきましたが、本報告に対して何かご質問、ご意見などがありましたらお願いします。松本先生、お願いします。
- (松本) 大変貴重なご報告をありがとうございました。1点質問させていただきたいのですが、国際協力というときに、文部科学省だけの予算というよりは、むしろ例えばODA予算の獲得をするような狙いというのがありますか。例えばアメリカなどだとUSAIDのお金が一部、大学がやる国際協力というときに使われるというところがありますが、いかがでしょうか。
- (梅澤) 実は大きな枠組みで言うと、ODA予算の枠組みの中に国際協力イニシアティブも入っているのですが、今ご指摘の点は、例えばJICAの事業などというような意味ではないかと思われます。こういった事業を皆さま方が獲得できるようにお手伝いをするということも私どもの仕事の一つですし、今ご紹介しました国際協力イニシアティブの中で築き上げた成果として出てきたモデル、例えば成果物としてまとめられたハンドブックなどが、例えばJICAにおけるいろいろな研修で使われたり、あるいは実際の技術協力の中で使用されるということをご期待して、私どもの事業としても行っているということです。
- (横原) そのほかにも何かありますか。
- (今津) 山口大学の今津です。大学リソースの活用ということで、今年もアンケートが回っているのですが、分野をセクターで分けて、この分野と指定されるのですが、もう少し複合的なアプローチをしたいときに、どういう形でこういうリソースに登録していくのかというあたりを考えていただくとありがたいかなと思うのですが。
- (梅澤) 今行っているリソースの調査については、やはりいろいろ予算、あるいは作業的な限界もありますので、順次広げていくということも考えられるところですが、ある意味で言うと、いろいろ学際的な部分もあるのではないかと思います。まず、四つの分野に分けているのは、我が国に対する援助の分野としてニーズが高いものを選定して、なおかつ、その中でいろいろキーワードとして選んでいるものについては、そういった多様な広がりというものを考慮して行っているところです。ただ、どこかのところで線引きをしなければいけないというところで、大分類が与えるイメージが必ずしもそういったところを反映していない部分もあるのではないかと思います。今年度については先ほどお示しした4分野というところで行っているところです。

(槇原) 時間もあまりないので、あと一名、どなたかご質問がありましたら、お受けしたいと思います。

(瓜谷) 十数年ほど前には、実際にODA等で国際交流をするという場合にはJICAの専門員が必ず一緒に行きましたが、現在は文部科学省としてはそういうODAの国際交流にどういうふうタッチしておられるのでしょうか。

(梅澤) やはり一番、額としても、文部科学省のODA関係の予算額のほとんどが留学生関係の予算ですので、それを除いた国際協力、支援・援助ということになりますと、やはりJICAの事業を通じた形というのが主流になっております。ただ、そういったJICAの事業について、いろいろな側面支援とか、あるいは案件についてもいろいろご協力をするというのが主になるわけですが、そういったものの質がより高まるように、大学の皆さま方が参画することを支援するというのが、私どもが行う業務の主となるものになっているのではないかと考えています。それについては、いろいろ力の入れ方が昔と違ってある部分があるかと思いますが、依然としてそういったものが中心になっているということは、あまり変わらないのではないかなというふうに考えています。

(槇原) 大変ありがとうございました。